

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	国語・現代の国語	単位数	2単位
使用教科書 〃 副教材	高等学校 現代の国語（第一学習社） 力をつける現代文 ステップ1（数研出版） 級別漢字セミナー（浜島書店）	対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組

科目の概要 と目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する
--------------	--

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
《オリエンテーション》	・学習の仕方と意義を理解する。
【評論】 「生きもの」として生きる 「水の東西」 他	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
【小説】 「羅生門」 「夢十夜」 他	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解する。 ・論理的に表現するための、主張と理由の関係性を理解する ・表現の仕方を工夫して書こうとしている。
【表現】 論理的な表現 話し方の工夫 他	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現の仕方について理解する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。
【論理分析】 具体と抽象 事実と意見	・文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。 ・文章を分析的に読み、事実から情報を抽出し、意見を形成していく論理の展開について理解する ・事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する。
【情報の扱い方】 法律の改正に関わる文章	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	国語・言語文化	単位数	2単位
使用教科書 〃 副教材	高等学校 言語文化 (第一学習社) 古典の手引き (いいずな書店) 古典の手引き定着ノート (いいずな書店) カラー版新国語便覧(デジタル教材) (第一学習社) よむナビ 古文1基礎編 (いいずな書店) よむナビ 漢文1基礎編 (いいずな書店)	対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組

科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語 (古典) の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができるようにする。
--------------	--

「単元」 「学習内容」	到達度目標
【古文入門】 「児のそら寝」 他	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや、人間描写の巧みさを知る。
【物語】 「伊勢物語」	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の代表的な物語を読み、古典に対する親しみを深める。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。
【随筆】 「枕草子」 「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。
【日記】 「土佐日記」	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。
【軍記物語】 「平家物語」	<ul style="list-style-type: none"> ・合戦を主題とした文学的作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。
【和歌】 「万葉集」 「古今集」 他	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞の仕方を理解し、和歌の特色を捉える。
【漢文入門】	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読について、基礎的な知識を身に付ける。 ・漢文と現代との関わりを知り、漢文を学ぶ意義を理解する。
【故事成語】 「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」 他	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。
【詩文】 「唐詩の世界」	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の表現や技法 (押韻や対句) について習熟する。 ・漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。
【思想】 「論語」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について学び、孔子のものの見方や考え方を理解する。

教科・科目	地理歴史・世界史B	単位数	3単位
使用教科書 副教材	詳説世界史B 改訂版 (山川出版社) 最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 新よくでる一問一答世界史 (山川出版社) 新世界史研究ノート標準編 (啓隆社)	対象学年 学科・組	3年 普通科・1,2,3組 (文系・観光ビジネスコース)

科目の概要 と目標	現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解させ、文化の多様性・複合性や相互交流を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
--------------	---

単元	学習内容	到達度目標
第Ⅱ部 第12章 欧米における近代国民国家の発展 第13章 アジア諸地域の動揺 第14章 帝国主義とアジアの民族運動	ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 アジア諸地域の植民地やと同様を整理して理解する。 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国を中心に、アメリカ大陸諸国の発展やアメリカとヨーロッパの関係などに着目し、アメリカ大陸の政治、社会、文化について理解する。 オスマン、ムガル、清帝国などアジアの諸国家の動揺と改革、ヨーロッパ諸国との関係などを理解し、アジアの近代について考察する。 19世紀後期からのヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化とアジア・アフリカの対応に着目し、19世紀後期から20世紀初期の世界の歴史の特色を理解する。
第Ⅲ部 第15章 二つの世界大戦 第16章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 第17章 現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解する。 第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。 第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 東欧社会主義圏の消滅、ソ連邦の解体と民族紛争、グローバル経済の進展を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦、両大戦間の国際社会、第二次世界大戦と戦後の国際関係などを理解し、20世紀の戦争や国際協調の歴史を考察する。 ロシア革命とソビエト連邦の成立、第二次世界大戦後の社会主義国家の成立などに着目し、ソビエト連邦と社会主義諸国の歴史について理解する。 20世紀におけるアメリカ合衆国の経済の発展、国際政治における役割、資本主義の変容と国際化などに着目し、アメリカ合衆国と自由主義諸国の歴史について理解する。 アジア・アフリカ諸民族の民族的覚醒、独立運動、独立後の国家建設などに着目し、20世紀のアジア・アフリカ諸国の歴史について理解する。 多極化した国際関係、核兵器問題、人種・民族問題、第二次世界大戦後の主要な国際紛争などに着目し、現代の国際問題を歴史的に考察する。 巨大技術、環境問題などに着目し、科学技術と現代文明を歴史的に考察する。 国際政治、国際経済、現代文明などにおいて人類の当面する問題について歴史的観点から考察を加えるとともに、これからの世界と日本を展望する。

教科・科目	地理歴史・日本史B	単位数	3単位
使用教科書	詳説日本史 改訂版 (山川出版社)	対象学年 学科・組	3年 普通科・1, 2, 3組 (観光ビジネスコース・ 文系)
使用副教材	新詳日本史 (浜島書店) ポテンシャル日本史 基礎力養成編 (山平商会) ポテンシャル日本史 用語BestSelection20 (山平商会)		
科目の概要と目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
単元	学習内容	到達度目標	
第11章近代から近代へ			
1 開国と幕末の動乱	江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解できる。	
2 幕府の滅亡と新政府の発足	幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。		
第12章近代国家の成立			
1 明治維新と富国強兵	明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現できる。	
2 立憲国家の成立	政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解できる。	
第13章近代国家の展開			
1 日清・日露戦争と国際関係	東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進化した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解できる。	
2 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。	大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現できる。	
3 ワシントン体制	第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。		
第14章近代の産業と生活			
1 近代産業の発展	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基盤が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 近代産業の発展にもともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現できる。	
2 近代文化の発達	伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解できる。	
3 市民生活の変容と大衆文化	労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。		
第15章 恐慌と第二次世界大戦			
1 恐慌の時代	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。	当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現できる。	
2 軍部の台頭	恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。		
3 第二次世界大戦	日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解できる。	
第16章占領下の日本			
1 占領と改革	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにもともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解できる。	
2 冷戦の開始と講和	連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現できる。	
第17章高度成長の時代			
1 55年体制	独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。		
2 経済復興から高度経済成長へ	朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。		
第18章 激動する世界と日本			
1 経済大国への道	高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。		
2 冷戦の終結と日本社会の変容	科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。		

教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	3単位
使用教科書 副教材	新詳地理B (帝国書院) 新地理の研究 (啓隆社) 新編 地理資料2022 (とうほう) 新詳高等地図 (帝国書院) '22 新地理要点ノート (啓隆社)	対象学年 学科・組	3年 普通科・3,4組 (理系・自然科学コース)

科目の概要 と目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	到達度目標
第Ⅱ部 現代世界の 系統地理的考察 2章 資源と産業 <ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー ・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 ・世界の工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー・鉱産資源の現状と課題および日本の資源問題が理解できる。 ・世界の工業の現状と課題および日本の工業の課題を説明できる。 ・第3次産業の発展と世界と日本の観光業の特徴に関心をもつ。 ・世界の交通・通信の発達による一体化と地域差を認識する。 ・世界貿易について進展する国際分業の現状と課題を考察し、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題が分かる。
3章 人口、村落・都市 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界人口の分布の特徴や動態人口構成や人口転換を理解できる。 ・人口問題について、発展途上国と先進国、日本の抱える問題の違いと背景にある原因について説明できる。 ・村落や都市の立地や発達、機能について理解できる。 ・都市・居住問題について、発展途上国と先進国、日本の事例を考察し、都市・居住問題の解決策について理解できる。
4章 生活文化・民族・宗教 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の衣食住について地域的差異に気づき、世界的に画一化が進む現状を理解できる。 ・民族と言語、世界の宗教分布や特徴、生活とのかかわりについて理解できる。 ・現代世界の国家についてさまざまな国家と国家間の関係の課題を理解できる。 ・現代世界の民族・領土問題を大観し日本での外国人との共生の課題について理解できる。
第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 <ul style="list-style-type: none"> ・地域区分とは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分の目的と意義を理解し、有用性に気づく。
2章 現代世界の諸地域 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の考察方法 ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・ヨーロッパ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア 	<ul style="list-style-type: none"> ・国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解できる。 ・それぞれの地域について形式的な地域区分にもとづき、自然環境や歴史と文化、産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に理解し、関心をもてる。 ・それぞれの地域の日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。
3章 現代世界と日本	

<ul style="list-style-type: none">• 日本が抱える地理的な諸課題• 日本の抱える課題の追究	<ul style="list-style-type: none">• 現代世界において日本が抱える地理的な諸課題について、多面的・多角的に考察し、探究する活動を通して、その解決の方向性や将来像について理解できる。
---	---

教科・科目	地理歴史・地理総合	単位数	2単位
使用教科書 副教材	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 高等学校新地理総合ノート（帝国書院）	対象学年 学科・組	1年普通科・農業科 1～5組

科目の概要 と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------------	--

学習項目・内容 (単元・章・節など)	達成度目標 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	第1章 ①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。“球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 ・国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解し、国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 ・外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的スキルを養う。 第2章 ①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきについて理解している。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	第1章 ①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。

<p>2節 世界の気候と人々の生活</p> <p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活</p> <p>4節 歴史的背景と人々の生活</p> <p>5節 世界の産業と人々の生活</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>2節 地球環境問題</p> <p>4節 人口問題</p> <p>5節 食料問題</p>	<p>世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>②世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>第2章</p> <p>①世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</p> <p>世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。</p> <p>②世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1節 日本の自然環境</p> <p>2節 地震・津波と防災</p> <p>3節 気象災害と防災</p> <p>4節 自然災害への備え</p>	<p>第1章</p> <p>①我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。</p> <p>さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。</p> <p>②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>

年間指導計画

教科・科目	地理歴史・歴史総合		単位数	2単位
使用教科書	新選歴史総合（東京書籍）		対象学年	1年
使用副教材	（なし）		学科・組	普通科・農業科
科目の概要と目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1章1節 歴史の扉	私たちの生活・地域と、日本や世界の歴史とのつながり	○身近な諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解する。		
第2章1節 近代化と私たち	近代化に伴う生活や社会の変容	○通商と産業の発展、市民社会の形成などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察する。		
第2章2節 結び付く世界と日本の開国	18世紀のアジア各地域間、アジア諸国と欧米諸国との関係とその変容	①アジア諸国相互ならびに欧米諸国との関係を多面的・多角的に考察・表現し、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国・日本の開国の背景・影響などに着目して、工業化と世界市場の形成を理解する。		
第2章3節 国民国家と明治維新	近代の政治や国家、国際関係の仕組みの形成過程とその展開	①政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ②帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容を通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。		
第3章1節 国際秩序の変化や大衆化と私たち	大衆化が国際社会・国際秩序にもたらした影響	○国際関係の緊密化、米ソ両国の台頭、植民地の独立、大衆の地位向上、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。		
第3章2節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦が起こった原因・背景と生活・社会・国際秩序に与えた影響	①第一次世界大戦の性格と惨禍、各国の関係や国際協調体制の特徴を通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。		
第3章3節 経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦が起こった原因・背景と生活・社会・国際秩序に与えた影響	①各国の世界恐慌への対応、国際協調体制の動揺の要因などを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 ②第二次世界大戦の性格、大戦下の社会状況、占領政策と国際情勢との関係等を考察し、大戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰を理解する。		
第4章2節 冷戦と世界経済	冷戦対立と国際政治・経済の展開	○冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容を通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。		
第4章3節 世界秩序の変容と日本	グローバル化の進展と新たな課題への対応	①市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 ②冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	公民・ 公共	単位数	2単位
使用教科書 副教材	高等学校 公共（第一学習社） 高等学校 公共ノート（第一学習社）	対象学年 学科・組	2年 普通科

科目の概要 と目標	<p>1 地域的特色と、日本及び世界との関わりを理解するとともに、調査や情報を効果的にまとめる技能を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>2 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動に取り組むことのできる生徒を育成する。</p> <p>3 多面的、多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする生徒の態度を養う。</p>
--------------	---

単元	学習内容	到達度目標
第1章 公共的な空間をつくる私たち I-①社会に生きる私たち I-②個人の尊厳と自主・自律 I-③多様性と共通性 I-④キャリア形成と自己実現 II-①伝統や文化とのかかわ	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ぶ。 ・伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。
第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I-①人間と社会のあり方についての見方・考え方 I-②実社会の事例から考える～環境保護 I-③実社会の事例から考える～生命倫理 II-①公共的な空間を形成するための考え方 II-②よりよく生きる行為者として活動するために	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。
第3章 公共的な空間における基本的原理 I-①人間の尊厳と平等 I-②個人の尊重 I-③民主政治の基本的原理 I-④法の支配 I-⑤自由・権利と責任・義務 II-①世界のおもな政治体制 II-②日本国憲法に生きる基本的原理	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	・人権保障のあゆみや世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。 ・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。

年間指導計画（書式）

教科・科目	数学・数学 I	単位数	3 単位
使用教科書	新編 数学 I（数研出版）	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材	新課程 教科書傍用 3TRIAL 数学 I（数研出版） チャート式 新課程 解法と演習 数学 I（数研出版）		
科目の概要と目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 式の計算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式、次数、係数、多項式、項など、多項式についての用語を理解する。多項式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式、式の展開などの基本的な計算力を身につける。 ・展開公式との関係に着目し、公式を利用して因数分解ができるようになるとともに検算に展開を利用したり、適切な形に整式を整理したりすることによって、やや複雑な因数分解ができるようになる。 ・自然数、整数、有理数、実数の意味を理解し、区別ができるようになる。 ・平方根の意味・性質を理解し、根号を含む式の計算、分母の有理化ができるようになる。また、その発展として、対称式の値の計算に活用できるようになる。 ・1次方程式と対比しながら、1次不等式の意味や、式変形を適切に行うことができる。 ・不等号の意味を理解し数量の大小関係を不等式で表したり、不等式の性質をもとに1次不等式を解いたりすることができるようになる。 ・連立不等式の意味を理解し連立1次不等式を解いたり、その解を、数直線を用いて表示したりできるようになるとともに、身近な問題を1次不等式に帰着させて解くことができるようになる。 ・絶対値の意味を理解し、絶対値を含む式の計算ができるようになる。 	
第2章 集合と命題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の意味と表し方、要素と集合の関係や集合と集合の関係に関わる用語や記号を理解し、ベン図等を用いて表現・処理できるようになる。 ・集合の包含関係から、命題の真偽が判断できるようになり、必要条件、十分条件、必要十分条件などの定義や使い方を理解できるようになる。 ・命題の逆・裏・対偶の定義を理解し、それらの真偽を判断できるようになる。 ・対偶を利用した証明方法や背理法による証明方法を学び、論理的な思考ができるようになる。 	
第3章 2次関数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸との位置関係 7. 2次不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念や基本的な用語を理解し、記号$y=f(x)$が使えるようになる。 ・2次関数とそのグラフについて、特徴や性質、用語を理解する。 ・平方完成を行うことで、与えられた2次関数のグラフを描くことができるようになる。 ・2次関数が最大値または最小値をもつことを理解し、グラフを利用して最大・最小を求められるようになる。 ・与えられた条件から、処理に適した式の形を用い、2次関数を定めることができるようになる。 ・因数分解や解の公式について理解し、それらを適切に活用して2次方程式を解くことができるようになる。 ・2次方程式の実数解の個数と判別式Dの符号との関係を理解し、解の判別に利用することができるようになる。 ・2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求められるようになる。 ・2次関数のグラフとx軸との共有点の個数を判別式Dの符号から考察することができるようになる。 ・2次関数のグラフをもとに2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようになる。 ・2次の連立不等式の解法を理解し、身近な問題を2次不等式の問題に帰着させて解くことができるようになる。 	
第4章 図形と計量	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形における正接、正弦、余弦の意味を理解し、その値を求め、活用できるようになる。 ・三角比の相互関係を利用し、1つの三角比の値から残りの値を求めることができるようになる。 ・拡張された三角比を座標平面に図示して考察するとともに、相互関係について理解を深め、それらを活用できるようになる。 ・正弦定理、余弦定理を理解し、既知の値から残りの値を求められるようになる。また、定理を用いて三角形が決定できることを理解する。 ・条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求めることができるようになる。 ・三角形の面積をもとに、多角形の面積について考察することができる。 また、その発展として、三角形の内接円の半径、円に内接する四角形の面積についても考察したり、三角比を空間図形の計量に活用したりできるようになる。 	
第5章 データの分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の関係 6. 仮説検定の考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布、ヒストグラムの意味を理解する。また、それらを作成し、目的に応じて資料を整理できるようになる。 ・各代表値の意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの分布の仕方により、適切でない代表値があることを理解している。 ・四分位数や箱ひげ図の意味を理解し、それらから、データの分布を比較することができるようになる。 ・分散、標準偏差の意味を理解し、それを求めることができる。 ・散布図を作成し、2つの変量間の相関を考察することができる。 ・相関係数は散布図の特徴を数値化したものであることを理解し、それを求めることができるようになる。 ・仮説検定の考え方を理解し、日常生活に利用できる。 	

教科・科目		理科・物理基礎		単位数	2 単位
使用教科書		数研出版 『新編 物理基礎』		対象学年	1 年
使用副教材		数研出版 『新編 物理基礎』 準拠サポートノート		学科・組	普通科・1～4 組
科目の概要と目標		日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
単元	学習内容	到達度目標			
物理量の扱い方		物理量の表し方やデータの扱い方を理解する。			
第1編 運動とエネルギー	表第1章 運動の	1. 速度	物体の速さと速度の違いを明確にする。さらに、等速度運動をグラフで示し、そこから得られる情報を理解させる。平均の速度と瞬間の速度の違いを明確にし、求められるようにする。相対速度の求め方を理解する。		
		2. 加速度	直線運動における加速度の定義を理解し、ベクトル量として扱うことを理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解し、それらを具体的に使うことが出来る。		
		3. 落体の運動	落体の運動は、等加速度直線運動であることに気づく。自由落下や鉛直投射等の式が書けるようにし、それを使える。また、水平投射や斜方投射は、水平方向と鉛直方向に分解して扱えることを理解する。		
	第2章 運動の法則	1. 力とそのはたらき	力は、ベクトル量であることを理解する。身近な力を取り上げ、それらの大きさや向きについて理解する。また、弾性力についてはフックの法則を扱い、ばね定数の意味についても理解する。		
		2. 力のつりあい	力はベクトル量であることを認識させながら合成や分解ができることを理解する。また、物体にはたらく力が正しく見つけられるとともに力が釣り合っているとき、分解したときの値についてつりあいの式が立てられる。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力の関係と作用反作用の2力の関係との違いが分かる。		
		3. 運動の法則	慣性の法則や運動方程式を扱い、力と運動との関係を実験を基に理解する。特に運動方程式については、具体例を用いて式の立て方を習得する。物体は落下するときに加速度を生じることから、運動方程式により、重力がはたらくていることがわかること、および、重力の大きさが mg [N] であることを理解する。		
		4. 摩擦を受ける運動	静止摩擦係数と最大摩擦係数の違いを認識でき、最大摩擦係数の大きさが静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。さらに、動摩擦係数の大きさについても動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。		
		5. 液体や気体から受ける力	流体中の物体は圧力を受けることや、その大きさや単位について理解する。また、流体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、その大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解する。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解する。		
	第3章 仕事と力学的エネルギー	1. 仕事	仕事の定義を確認しながら、その値は力と変位の積で求められることを理解する。また、 $F-x$ 図の面積が仕事の大きさを表すことを理解する。演習実験等を用いながら、仕事の原理を理解する。また、単位時間にした仕事の仕事率であることも理解する。		
		2. 運動エネルギー	運動している物体が運動エネルギーを持っていることとその大きさを求めることが出来る。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係を運用できる。		
		3. 位置エネルギー	基準より高い所にある物体は、重力による位置エネルギーをもっていることを理解する。また、重力がした仕事より、その値を求めることが出来る。弾性力による位置エネルギーについては、その値の求め方とともに過程も理解する。		
		4. 力学的エネルギーの保存	自由落下を例にとり、仕事と運動エネルギーの関係式を用いて、力学的エネルギー保存則が成り立つことを理解する。その際、保存力だけが仕事をすることを理解する。逆に、物体に非保存力が仕事をする際、その仕事だけ力学的エネルギーが変化することを理解する。		
第2編 熱	第1章 熱とエネルギー	1. 熱と物質の状態	ブラウン運動の観察を通じて、熱運動について理解する。温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を0とする絶対温度について理解する。熱の移動がエネルギーの移動であることを説明し、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。熱容量や比熱の定義を理解させようとして、温度を ΔT [K] 変化させるのに必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができる。また、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解する。物質には、固体、液体、気体の3つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があることを理解する。また、多くの場合、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解する。		
		2. 熱と仕事	身近な例を挙げ、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多くなるほど大きくなることを理解する。また、熱力学第一法則を理解する。自然界のエネルギーの変換では不可逆変化が伴うことを示し、それに関連して熱機関の効率について理解する。		
第3編 波	第1章 質波の性質	第1節 波と媒質の運動	波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解する。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長として波の伝わる速さであることを理解する。また、位相について扱い、同位相、逆位相についても理解する。横波と縦波の違いにも触れる。		
		第2節 重ねあわせの原理	波の重ねあわせの原理について理解する。定在波ができる仕組みや定在波の媒質の変位が場所によって振幅が異なることを理解する。また、自由端反射と固定端反射の違いを理解する。		
	第2章 音	第1節 音の性質	音波は縦波であることを理解する。空気中を伝わる音の速さは、温度が高いほど音の速さは速くなる。音の高さ・大きさについては、音波の波形図を用いて定性的に説明できる。うなりの現象を実験によって観察させ、その理由を理解する。		
		第2節 発音体の振動と共振・共鳴	弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解する。気柱の固有振動は閉端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握する。振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる（共振・共鳴）ことを理解する。		
第4編 電気	第1章 物質と電気	1. 電気の性質	物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることがわかる。		
		2. 電流と電気抵抗	電流の向きと大きさについて理解する。また、電圧・電流・電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つこと、抵抗率についても理解する。直列・並列接続の特徴を理解する。		
	第2章 交流	3. 電気とエネルギー	導体の両端に電圧を加えるときの導体内にある自由電子の様子について理解する。運動エネルギーが陽イオンに与えられ、陽イオンの熱運動が激しくなって導体の温度が上がることを理解する。またその際に発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解する。電流がする仕事（電力量） W が Ivt [J] に等しいことを理解する。		
1. 電流と磁場		磁石の性質を示し、磁力線の説明へと進める。直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場の向きについて理解する。電流が磁場から受ける力について説明し、直流モーターのしくみを理解させる。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解する。			

		2. 交流と電磁波	交流の電圧は時間的に変化し、その電圧の波形には最大値や0となる瞬間があることを理解する。交流発電機のしくみを理解する。変圧器は交流の電圧を変えていること、および、一次コイルと二次コイルの交流電圧の比は、一次コイルと二次コイルの巻数の比に等しいことを理解する。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、 γ 線が含まれ、波の性質をもっていることを理解する。
第5編 物理学と社会	第1章 エネルギーの利用	1. エネルギーの 移り変わり	エネルギーには、力学的エネルギーや熱エネルギー、電気エネルギーのほかにもいろいろな種類のエネルギーがある。ここでは光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーとは何か、またそれらのエネルギーの具体的な利用についてわかる。また、あらゆる自然現象におけるエネルギーの変換では、それに関係した全てのエネルギーの和は一定に保たれることを理解する。
		2. エネルギー資源と発電	エネルギー資源には一次エネルギーと二次エネルギーがあること、そして二次エネルギーの一種である電気エネルギーを得るための発電の方法について、そのしくみと特徴がわかる。特に、原子力発電を理解するために必要な知識である原子核、同位体、核反応、原子炉のしくみなどについてわかる。
		物理学が拓く世界	スポーツ、防災、自動車のような身近な技術を題材に、「物理基礎」の学習内容との関連がわかる。また、職業に就いている人の声を紹介し、将来の進路について考える。

年間指導計画（書式）

教科・科目	化学基礎		単位数	2単位
使用教科書	化学基礎（実教出版）		対象学年 学科・組	1年 農業科 5組
使用副教材	高校化学基礎カラーノート新課程版（実教出版）			2年 普通科 1・2組 農業科 5組
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 化学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 自然界や産業界にある事象・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 自然の事象・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。 			
単元	学習内容	到達度目標		
序章	物質と化学	物質の性質に注目し、それぞれの物質を性質ごとに分類することができる。 中学校で習った知識と関連付けながら仮説をたて、実験を計画し、結果をまとめ、発表することができる。 日常生活や社会を支える物質やその利用に関心を持ち、物質の取り扱い方や人間生活における役割を探究しようとする。 実験を通して、身近な物質の物理的性質や化学的性質を調べることができる。		
1章 物質の構成	1節 物質の探究	1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動	身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。 物質を探究するための具体的な方法を身につけている。 粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。 物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。 身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。	
	2節 物質の構成粒子	1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表	物質が原子から成り立っていることを理解している。 原子は原子核と電子からなっていて、価電子が物質の性質を決めていることを理解している。 同位体についての正しい知識を身につけている。 元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。 原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。 イオンの生成を電子配置と関連づけて考えることができる。 元素の性質に興味を持ち、元素の性質が周期的に変わることを探究しようとする。	
2章 物質と化学結合	1節 イオン結合	1 イオン結合 2 イオン結晶	イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。 イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。 水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。	
	2節 共有結合と分子間力	1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質	共有結合を電子配置と関連づけて理解している。 配位結合について理解している。 分子の電子式・構造式を書くことができる。 電気陰性度を理解している。 分子に働く力を理解し、分子結晶や高分子化合物について理解している。 電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。	
	3節 金属と金属結合	1 金属結合と金属 2 身のまわりの金属	金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解している。 電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。 身近な金属の色や性質、電気や熱の伝導度について観察したり、調べたりする技能を習得している。 自由電子と金属の性質を結び付けて考えることができる。 金属元素どうしがどのように結びついているのかについて探究しようとする。 金属に共通する性質について、探究しようとする。	
	4節 化学結合と物質	1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質	1～3節で学習した化学結合の種類を系統だてて理解している。 1～3節で学習した化学結合について、特徴を比較しながら表現することができる。 身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。	
3章 物質の変化	1節 物質と化学反応式	1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式	原子量・分子量・式量と物質質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解している。 物質質量を用いた基本的な計算ができる。 化学式と原子量・分子量・式量・物質質量の関係を身につけている。 物質質量と気体の体積の関係を理解している。 モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質質量との関係を表していることを理解している。 溶液調製に必要な実験器具を適切に取り扱い、目的とする濃度の水溶液を調製する技能を習得している。 基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得している。 質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。 化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現することができる。 反応式の係数が、物質質量の比を表していることを見出すことができる。 溶液の濃度の表し方について探究しようとする。 いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。	
	2節 酸と塩基	1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基の反応を捉えることができる。 酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。性、塩基性の程度とpHの関係を理解している。 中和反応における量的関係を理解している。 中和滴定の実験を行い、メスフラスコ、ビュレット、ホールビペットなどの実験器具の取り扱いを習得している。 酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を修得している。 酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。 酸・塩基はどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする。	
	3節 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの酸化還元反応	酸化・還元反応の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。 酸化数の定義を理解している。 酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。 イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 酸化還元反応の量的関係を理解している。 金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。 酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。 身近な現象と酸化還元反応を関連付けることができる。 酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。	
終章	科学技術と化学	身のまわりの生活と化学基礎で学んできたことを結び付け、化学が生活に役立っていることを理解する。 身のまわりの生活に生かされている科学技術について、化学的に説明し、表現することができる。 化学が生活に役立っていることを理解し、教科書に掲載されている事柄以外の技術にも興味をもち、探究しようとする。		

年間指導計画（書式）

教科・科目	化学基礎		単位数	2単位
使用教科書	化学基礎（実教出版）		対象学年 学科・組	2年 普通科 3・4組
使用副教材	高校化学基礎カラーノート新課程版（実教出版） リードLightノート 化学基礎（数研出版）			
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・化学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 ・自然界や産業界にある事象・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 ・自然の事象・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 ・自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。 			
単元	学習内容	到達度目標		
序章	物質と化学	<p>物質の性質に注目し、それぞれの物質を性質ごとに分類することができる。</p> <p>中学校で習った知識と関連付けながら仮説をたて、実験を計画し、結果をまとめ、発表することができる。</p> <p>日常生活や社会を支える物質やその利用に関心を持ち、物質の取り扱い方や人間生活における役割を探究しようとする。</p> <p>実験を通して、身近な物質の物理的性質や化学的性質を調べることができる。</p>		
1章 物質の構成	1節 物質の探究	<ol style="list-style-type: none"> 1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 	<p>身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。</p> <p>物質を探究するための具体的な方法を身につけている。</p> <p>粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。</p> <p>物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。</p> <p>物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。</p> <p>物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。</p> <p>身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。</p>	
	2節 物質の構成粒子	<ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表 	<p>物質が原子から成り立っていることを理解している。</p> <p>原子は原子核と電子からなっていて、価電子が物質の性質を決めていることを理解している。</p> <p>同位体についての正しい知識を身につけている。</p> <p>元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。</p> <p>原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。</p> <p>イオンの生成を電子配置と関連づけて考えることができる。</p> <p>元素の性質に興味を持ち、元素の性質が周期的に変わることを探究しようとする。</p>	
2章 物質と化学結合	1節 イオン結合	<ol style="list-style-type: none"> 1 イオン結合 2 イオン結晶 	<p>イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。</p> <p>イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。</p> <p>水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。</p> <p>イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。</p>	
	2節 共有結合と分子間力	<ol style="list-style-type: none"> 1 共有結合と分子間力 2 共有結合からなる物質 	<p>共有結合を電子配置と関連づけて理解している。</p> <p>配位結合について理解している。</p> <p>分子の電子式・構造式を書くことができる。</p> <p>電気陰性度を理解している。</p> <p>分子に働く力を理解し、分子結晶や高分子化合物について理解している。</p> <p>電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。</p>	
	3節 金属と金属結合	<ol style="list-style-type: none"> 1 金属結合と金属 2 身のまわりの金属 	<p>金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解している。</p> <p>電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。</p> <p>身近な金属の色や性質、電気や熱の伝導度について観察したり、調べたりする技能を習得している。</p> <p>自由電子と金属の性質を結び付けて考えることができる。</p> <p>金属元素どうしがどのように結びついているのかについて探究しようとする。</p> <p>金属に共通する性質について、探究しようとする。</p>	
	4節 化学結合と物質	<ol style="list-style-type: none"> 1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質 	<p>1～3節で学習した化学結合の種類を系統だてて理解している。</p> <p>1～3節で学習した化学結合について、特徴を比較しながら表現することができる。</p> <p>身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。</p>	
3章 物質の変化	1節 物質と化学反応式	<ol style="list-style-type: none"> 1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 	<p>原子量・分子量・式量と物質質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解している。</p> <p>物質質量を用いた基本的な計算ができる。</p> <p>化学式と原子量・分子量・式量・物質質量の関係を身につけている。</p> <p>物質質量と気体の体積の関係を理解している。</p> <p>モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質質量との関係を表していることを理解している。</p> <p>溶液調製に必要な実験器具を適切に取り扱い、目的とする濃度の水溶液を調製する技能を習得している。</p> <p>基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得している。</p> <p>質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。</p> <p>化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現することができる。</p> <p>反応式の係数が、物質質量の比を表していることを見出すことができる。</p> <p>溶液の濃度の表し方について探究しようとする。</p> <p>いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。</p>	
	2節 酸と塩基	<ol style="list-style-type: none"> 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 	<p>酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基の反応を捉えることができる。</p> <p>酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。性、塩基性の程度とpHの関係を理解している。</p> <p>中和反応における量的関係を理解している。</p> <p>中和滴定の実験を行い、メスフラスコ、ビュレット、ホールビペットなどの実験器具の取り扱いを習得している。</p> <p>酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を修得している。</p> <p>酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。</p> <p>酸・塩基はどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする。</p>	
	3節 酸化還元反応	<ol style="list-style-type: none"> 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの酸化還元反応 	<p>酸化・還元反応の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。</p> <p>酸化数の定義を理解している。</p> <p>酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。</p> <p>イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。</p> <p>酸化還元反応の量的関係を理解している。</p> <p>金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。</p> <p>酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。</p> <p>身近な現象と酸化還元反応を関連づけることができる。</p> <p>酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。</p>	
終章	科学技術と化学	<p>身のまわりの生活と化学基礎で学んできたことを結び付け、化学が生活に役立っていることを理解する。</p> <p>身のまわりの生活に生かされている科学技術について、化学的に説明し、表現することができる。</p> <p>化学が生活に役立っていることを理解し、教科書に掲載されている事柄以外の技術にも興味をもち、探究しようとする。</p>		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2単位
使用教科書 副教材	高等学校 生物基礎（第一学習社） クリア生物基礎（第一学習社）	対象学年 学科・組	1年普通科 1～4組

科目の概要 と目標	図や写真にとどまらず、映像や音声など様々なツールを通じて、自然現象や生理現象への理解を深めるとともに、自らの体内で起こっている現象と結びつけて物事を理解し、科学への見識を深める。
--------------	---

学習項目・内容 (単元・章・節など)	学 習 の ね ら い
第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸	<ul style="list-style-type: none"> 生物の情報として根本的なDNAの役割、細胞の本質的な機能と構造などについて理解する。 生体内を物質が出入りすることの必要性和、その結果起こる現象について理解する。
第2編 生物の体内環境の維持 第2章 生物の体内環境 1. 体内環境としての体液 2. 腎臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 生体内で各器官が担う役割とその機能について、神経やホルモンの働きを学びながら理解する。 ホメオスタシスの維持について、神経・ホルモンなどが深く関わること、また血液の本質的な役割である免疫機能の特徴と仕組みについて理解する。
第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の植物がどのような環境で生育しているのか、また地域差による環境の違いによってどのような植生が形成されていくのか、長い時間経過を通して積み上げられる自然の変化を学び、理解する。
第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 地球上に認められる生態系の種類や形成過程の違いについて、求められる環境の違いからどのように変化するのかについて学び、理解する。

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動の意義や原則を理解し、健康の保持増進や体力を向上させることができる。 		
器械運動	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・体力や技能に応じた回転系や技巧系の基本的な技ができる楽しさや喜びを味わうことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの種目の特性を理解し、運動の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができる。 		
球技	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を身に付け、サッカーの特性を理解し、ボール空間を作り出す動きを活用したゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、バスケットボールの特性を理解し、空間を作り出す動きを活用したゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、狙った場所にボールを打ち返ししながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本的な技術を身に付け、各種フライトを使い分けて攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、ボールに変化をかけるなどの工夫をしながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技術を身に付け、フォーメーションを意識し、チームで協力して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・キャッチボールやバッティングの基本技術を身に付け、チームで協力して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツの発祥と発展」について理解することができる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	2年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自分や仲間の心身の状態を感じたりすると共に交流する楽しさを味わいながら自己の健康保持増進や体力を向上させるためのことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。 		
球技・武道	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 バレーボール ソフトボール 柔道 ダンス 現代的なリズムダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、パートナーと連携した攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、シングルスやダブルスの攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人の課題を解決しながら、シングルスやダブルスの攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、個人やチームの課題を解決しながら、仲間と連携した動きでゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・武道の伝統的な考え方を理解し、基本動作と基本技術を身に付け、攻防を展開できるようになる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・「運動・スポーツの学び方」について理解することができる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・体育		単位数	単位
使用教科書	なし		対象学年 学科・組	3年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	なし			
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体づくり運動		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を通し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活での課題を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、継続的に運動に取り組むことができる。 		
陸上競技	短距離・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、記録を高めることができる。 		
球技・武道	サッカー バスケットボール ソフトテニス バドミントン 卓球 バレーボール ソフトボール 柔道 ダンス 現代的なリズムダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、ダブルスの作戦や戦術を工夫しながらパートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、シングルスやダブルスの作戦や戦術を工夫しながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、シングルスやダブルスの作戦や戦術を工夫しながら攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫しながらゲームを展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。 		
体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かなスポーツライフの設計」について理解することができる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・保健		単位数	単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）		対象学年 学科・組	1年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）			
科目の概要と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について理解できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解できる。 ・生活習慣病の種類と要因について理解できる。 ・がんの種類や原因について理解できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解できる。 ・健康と運動の関係について理解できる。 ・食事と健康の関係について理解できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解できる。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解できる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解できる。 ・精神疾患の発病の要因とおもな症状について理解できる。 ・精神疾患を予防する方法について理解できる。 ・精神疾患の治療について理解できる。 ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解できる。 ・感染症の予防対策の3原則について理解できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解できる。 ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解できる。 ・社会環境の健康への影響について理解できる。 		
安全な社会生活	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について理解できる。 ・安全のために必要な個人の行動について理解できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解できる。 ・応急手当の意義について理解できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解できる。 		

年間指導計画（書式）

教科・科目	保健体育・保健		単位数	単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）		対象学年 学科・組	2年 普通科・1～4組 農業科・5組
使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）			
科目の概要と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康の関連について理解できる。 ・思春期における体の変化について理解できる。 ・性意識の男女差について理解できる。 ・妊娠・出産の過程における健康問題について理解できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。 ・心身の発達と結婚生活の関係について理解できる。 ・加齢にともなう心身の変化について理解できる。 ・働くことの意義と健康のかかわりについて理解できる。 ・労働災害の種類とその原因について理解できる。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解できる。 		
健康を支える環境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康への影響について理解できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について理解できる。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について理解できる。 ・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解できる。 ・保健行政の役割について理解できる。 ・わが国における医療保険のしくみについて理解できる。 ・医薬品の正しい使用法について理解できる。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について理解できる。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて理解できる。 		

年間指導計画

教科・科目	芸術・音楽 I		単位数	単位
使用教科書	高校生の音楽1 (教育芸術社)		対象学年 学科・組	1年 普通科1～4組
使用副教材				
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
単元	学習内容	到達度目標		
(表現・歌唱) ・「入善高等学校校歌」 ・「翼をください」 ・「野ばら」 ・「A Whole New World」	・歌唱の基本を学ぶ。 ・声を出すことに慣れる。 ・発声の図を用いつつ、力みのない歌唱法を身に付ける	・歌うときの基本的な姿勢、呼吸、声の響かせ方を身に付ける。 ・曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。 ・歌詞の内容や曲の背景を理解し、詩情に合った歌唱表現を工夫する。		
(表現・器楽) ・リズムアンサンブル ・『クラッピングカルテット第1番』 ・様々な楽器を使ったアンサンブル 他	・基本的な音価の教え方を学ぶ。 ・パート毎の音響ヒエラルキーを考える。 ・色々な楽器でのアンサンブルを実践する。	・リズム奏に用いる楽器の組み合わせを工夫して豊かな音色で表現する。 ・曲にふさわしい奏法や身体の使い方を身に付ける。 ・他者との調和を意識して、その表現を工夫する。		
(表現・創作) ・創作 ・《きらきら星》の旋律で音楽をつくろう 他	・既存の作品の断片を用い、創作に触れる。 ・ニュアンスに合わせた音楽表現をする。	・自分のイメージに合わせて音楽をつくる。 ・創作表現に関わる知識や技能を身に付け、表現を創意工夫する。		
(鑑賞) ・ベートーヴェン：交響曲第9番 第4楽章 ・ガムラン ランチャラン マニャルセウ ・日本の伝統的な音楽 ・ミュージカル ・オペラ 他	・ワークシートを用いつつ、様々な音楽作品への意見を整理する。	・音楽のよさや美しさを味わって聴き、曲に対する評価とその根拠について考える。 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景について理解する。 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について学ぶ。 ・音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める。		

年間指導計画

教科・科目	芸術・美術 I	単位数	2 単位
使用教科書	美術1 (光村図書)	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材			
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		
単元	学習内容	到達度目標	
【鑑賞(鑑賞中心)】 美術 I オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の意義について考える。 ・1年間の題材について知る。 ・「美術の体操」に取り組む(4コマ漫画作成・鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会に求められる想像力と芸術表現の関わりについて、理解を深めている。 ・自分の日常的な生活などから主題を生成し、4コマ漫画の構成や造形について考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・「美術の体操」などの発想を引き出す活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(表現中心)】 教科書作品模写	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書作品ベスト5を決める。 ・教科書作品を模写する。 ・模写作品を鑑賞し合い、作者の意図や心情について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書作品の構図や配色、技法などを観察し、自分の技術を駆使し正確に再現しようとしている。 ・模写を通して作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の工夫などについて見方や感じ方を深め、自分の言葉で伝えようとしている。 ・教科書作品のよさや面白さを捉えて再現する造形活動に、粘り強く取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 日本人現代アート作家鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人現代アート作家の経歴と作品を知る。 ・作家の関連動画を視聴する。 ・作家についての自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アート作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、社会や美術界の動向と作家の表現意図との関係性、創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 ・現代アート作品から作家の表現意図を考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 エッチング(銅版画) 想像した世界を描く	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や現実にはない不思議を想像し、主題を生成する。 ・主題をもとに、形や線・点、構図などの構想を練る。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどから主題を生成し、形や構図、イメージを組み合わせるなどの創造的な表現の構想を練っている。 ・主題に応じて形や線・点、構図などの表現を工夫し、創造的に表している。 ・夢や想像、自分を見つめて感じ取ったことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【映像メディア(表現中心)】 ピンホールカメラで撮影しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な写真作品を鑑賞し、主題を持って撮影することについて考える。 ・ピンホールカメラの特性を踏まえ主題を生成する。 ・主題をもとに、構図や光などの構想を練り、撮影する。 ・現像処理を行い、写真(ネガ)作品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、光などがもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、様々な主題で撮影された写真作品を、全体のイメージや作風で捉えている。 ・身近な対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとに主題を生成し、ピンホールカメラの特性、光や構図、ポーズなどの視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・身近な対象を見つめ、表情や動き、背景などについて感じたことや考えたことをもとに写真に表現する創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【デザイン(鑑賞中心)】 色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・「見る」仕組みについて知る。 ・色の3原色、加法混色・減法混色 ・錯視・色彩心理 ・配色について <p>[演習]</p> <p>①12色相環 ②明度・彩度対比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚の原理や色彩心理などが生活に与える影響について理解を深め、それらをもとに色彩の演習に主体的に取り組んでいる。 ・色の3属性について理解を深め、色相環などの色づくり演習を合理的に進めることができる。 	
【デザイン(表現中心)】 オリジナルCDジャケットデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインとは何か考える。 ・好きなアーティストの歌詞や曲調をもとに構図・配色・画材などの構想を練る。 ・画材や表現方法を工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や配色、画材などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、ジャケットデザインを、全体のイメージや作風などで捉え理解している。 ・好きなアーティストの歌詞や曲調などから主題を生成し、構図や配色、CDジャケットの表・裏面の関係性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・アーティストが曲に込めた想いについて考え、構図や配色、画材を工夫してCDジャケットをデザインする創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【絵画・彫刻(表現中心)】 油彩画で自己を表す	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめて感じ取ったことから主題を生成する。 ・主題をもとに構想を練り、油彩画の特性を生かした表現方法を工夫し、制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、構図・配色、単純化や省略・強調などを考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・表現意図に応じて画材や用具・技法を選択し、その特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追究した思いについて考え、構図や配色、画材を工夫してCDジャケットをデザインする創造活動に主体的に取り組んでいる。 	
【鑑賞(鑑賞中心)】 近隣美術館での企画展鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員から美術館が地域社会に果たす役割や展覧会の主旨を聞き、アートへの視野を広げる。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心をもち、作家や作品の見方や感じ方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展作品の造形的なよさや面白さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 ・企画展作品から作家の表現意図について考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組んでいる。 	

年間指導計画

教科・科目	芸術・書道 I		単位数	2 単位
使用教科書	書道1 (光村図書)		対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組
使用副教材				
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法・形式・多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づいた表現の技能を身につける。 伝統・文化を通して書の実を感受し、価値を考へ、意図に基づいた表現が工夫できる。 主体的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好し、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。 			
単元	学習内容	到達度目標		
○書写から書道への発展	<ul style="list-style-type: none"> 文房四宝に対する理解 基本的な姿勢 生活の中の書 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科書写と芸術科書道の違いや目指すところを理解する。 用具の使用手法、手入れ手法を知り、大切に使えるようになる。 筆・鉛筆の持ち方、構え方、姿勢を身につける。 書の伝統と文化を感じながら学習し、身の周りの『書』に気付き、「生活の中に生きる書」への関心を高める。 		
○楷書の古典の鑑賞と臨書	<ol style="list-style-type: none"> 鄭義下碑 牛概造像記 孔子廟堂碑 九成宮禮泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 	<ul style="list-style-type: none"> 書体の変遷について学び、楷書の成立を理解する。 古典を臨書し、いろいろな書風があることを知り、表現できるようになる。 筆の弾力、毛のねじれ、毛先の開閉などの特性を知り、意図に応じて適切に工夫し表現ができるようになる。 		
○行書の古典の鑑賞と臨書	<ol style="list-style-type: none"> 蘭亭叙 争座位稿 風信帖 	<ul style="list-style-type: none"> 点画の連続する行書の特徴を理解する。 古典の表現の多様性を感じ取ることができる。 筆脈、抑揚、空間の大切さを学び、生かすことができるようになる。 		
○漢字作品の創作	<ul style="list-style-type: none"> 漢字一字による創作 漢字二字による創作 	<ul style="list-style-type: none"> 古典の学習を生かし、個性もプラスして作品を創作できるようになる。 学習したことを生活の中に生かし、表現する楽しみを知る。 「感情を書で表現する」ための構想を立て、墨の濃淡や潤濁、筆づかいを意図に応じて工夫できる。 創作作品を鑑賞し、作者の意図と表現の工夫を感知できる。 		
○仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の基本 平仮名单体・いろは歌 連綿の方法 「高野切」の臨書 短歌のちらし書き 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の用具や用語を理解し基本用筆を習得する。 平仮名の字源を知り、平仮名や変体仮名を理解する。 連綿の基本的法則を知り習得する。 単体、連綿を組み合わせ、空間の美しさも考慮した短冊・色紙作品が書けるようになる。 		
○漢字仮名交じり文の学習	<ul style="list-style-type: none"> 調和の方法 作品の製作 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字と仮名を調和させる方法を考へ、表現できるようになる。 書きたい文字や言葉を、感情豊かに表現を工夫した作品が書けるようになる。 		

年間指導計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	外国語・英語コミュニケーション I	単位数	3 単位
使用教科書 副教材	Big Dipper English Communication 1 (開隆堂) Big Dipper English Communication ベーシックノート (開隆堂)	対象学年 学科・組	1 年 普通科・1～4 組

科目の概要 と目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして，情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言葉の背景にある文化について理解することができる。
--------------	---

単元・学習内容	到達度目標
Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の大切さ、理想的な朝食を知る。 【文法】現在形・過去形・未来形、S+V・S+V+C・S+V+O 現在完了形、現在進行形、命令文
Lesson 2 A Mascot with a Mission	<ul style="list-style-type: none"> ・町おこしのキャラクターの役割を理解する。 【文法】S+V S+V+O 不定詞 動名詞
Lesson 3 Two Kinds of Leadership	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのタイプのリーダーシップについて理解する。 【文法】関係代名詞 who which that S+V+O+O S+V+O+C
Lesson 4 Older Sports and New Sports	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な新旧のスポーツについて読んだり、話したりできる。 【文法】現在完了、S+V+O(=that 節)、過去完了
Lesson 5 AI Meets the Arts	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の世界にまで進出する人工知能について考えを伝え合える。 【文法】原級 比較級 最上級
Lesson 6 What is Happiness?	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の「幸福度」の違いについてデータを英語で読み取れる。 【文法】過去完了 関係副詞 where when
Lesson 7 The Maldives : A Dream of Destination	<ul style="list-style-type: none"> ・人気の観光地が抱える問題を通して環境問題について考える。 【文法】SVOC (知覚動詞・使役動詞・原形不定詞)
Lesson 8 Kazu Hiro:In Pursuit of a Dream	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読んで将来の夢や進路について考えを整理し伝える。 【文法】関係副詞 how why 関係代名詞 what 強調構文
Lesson 9 From Recycle to Upcycle	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの再利用の新しい概念について学び理解を深めることができる。 【文法】分詞構文 現在完了進行形
Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会における雇用の多様性 ワークライフバランスを考える。 【文法】仮定法過去 過去の習慣の助動詞 受け身の助動詞

年間指導計画

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位数	2単位
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基701）	対象学年 学科・組	2年 普通科科 1・2・3・4組
使用副教材	最新生活ハンドブック 資料&成分表（第一学習社） とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会）		
科目の概要と目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p>		
単元	学習内容	到達度目標	
第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、ライフステージの特徴と課題を理解する。 生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会 第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。 高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	
第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	

年間指導計画

教科・科目	情報・情報 I		単位数	2 単位
使用教科書	『最新情報 I』（実教出版株式会社）		対象学年	1 年
使用副教材	『最新情報 I 学習ノート』（実教出版株式会社）		学科・組	普通科・1～4 組
科目の概要と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。			
単元	学習内容	到達度目標		
1 情報社会と私たち	1 情報社会	情報社会の現状／情報の特性／情報モラルと情報化	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の現状や基本的用語について説明できる。 不特定多数を対象としたコミュニケーションの注意点を挙げるができる。 	
	2 情報社会の法規と権利	著作物の適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権の概要や、社会に与えている影響について説明できる。 	
		個人情報管理とプライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報、プライバシー概念を理解し、保護の方法を説明できる。 	
3 情報技術が築く新しい社会	社会の中で利活用されている情報技術／情報技術と課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中の情報システムに興味・関心を持ち、実例を挙げて説明できる。 情報技術を社会問題の解決に役立てる方法を提案できる。 		
2 メディアと情報デザイン	1 メディアとコミュニケーション	メディアの種類や特性	<ul style="list-style-type: none"> メディアの機能や分類について説明できる。 	
		コミュニケーションの形態	<ul style="list-style-type: none"> メディア活用やメディアを用いたコミュニケーションができる。 	
	2 情報デザイン	情報デザインと伝達手段	<ul style="list-style-type: none"> 情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的を説明できる。 	
		3 情報デザインの実践	文書作成の手順	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成の基本について理解し、実際に簡単な文書を作成できる。
	プレゼンテーションの方法		<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの流れについて説明できる。 	
3 システムとデジタル化	1 情報システムの構成	コンピュータの構成と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明できる。 	
		ソフトウェアとインターフェース	<ul style="list-style-type: none"> ハードウェア、OS、ソフトウェアの関係を説明できる。 	
	2 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違い	<ul style="list-style-type: none"> アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。 	
		2進数と情報量の関係	<ul style="list-style-type: none"> 2進数と情報量の関係について説明できる。 	
	数値や文字のデジタル化／数値計算の仕組み／データ圧縮	<ul style="list-style-type: none"> 2進数・10進数・16進数を相互に変換できる。 2進数の加算や減算をできる。 		
4 ネットワークとセキュリティ	1 情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの構成	<ul style="list-style-type: none"> 通信方式の種類やその違いについて説明できる。 	
		ネットワーク通信の仕組み／Web ページとメールの仕組み	<ul style="list-style-type: none"> インターネット通信の階層構造、各プロトコルの働きを説明できる。 インターネットのサービスの内容と基本的な仕組みを説明できる。 	
	2 情報セキュリティ	情報セキュリティを確保する方法と技術／情報を安全に取り扱うための技術	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明できる。 情報セキュリティポリシーの概要や意義について説明できる。 暗号化の方式と仕組みについてそれぞれ説明できる。 	
5 問題解決とその方法	1 問題解決	問題解決の手順、問題の発見の方法／解決案を決定する方法	<ul style="list-style-type: none"> 問題や問題解決の意味、問題解決の手順について説明できる。 問題の解決案を比較検討する資料や、問題解決の工程表を作成できる。 	
		2 データの活用	データを収集・整理する方法	<ul style="list-style-type: none"> データの種類と尺度水準について理解し、収集したデータを整理できる。
	表計算ソフトの活用方法		<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトを用いて適切にデータの並べ替えや抽出などができる。 	
	データ分析の手法		<ul style="list-style-type: none"> クロス集計、相関係数を用いた分析、回帰分析を行うことができる。 	
	データベースの種類と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> データベースの意味と必要性を理解し、機能について説明できる。 		
6 アルゴリズムとプログラミング	1 プログラミングの方法	アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法	<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムとプログラムについてそれぞれ説明できる。 問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に主体的に取り組んでいる。 	
		プログラミング言語の種類とその特徴	<ul style="list-style-type: none"> プログラミングの手順（設計→コーディング→テスト）を理解している。 プログラミング言語のおもな種類とその特徴を理解している。 	
	2 プログラミングの実践	変数や関数を使用したプログラムの作成／データ探索プログラムの作成	<ul style="list-style-type: none"> 変数や関数を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成できる。 探索（線形探索、二分探索）および整列（バブルソート）のアルゴリズムを理解し、プログラムを作成できる。 	